

6. 学生による学生支援制度の設計・運営

(1) 新寮レジデント・アシスタント(SCC-RA)

お茶大 SCC（以下、SCC）開寮から3年目に入った平成25年、SCCとして初めて、学部入学から2年間を過ごした寮生の卒寮を迎えることとなった。この節目の年に、SCCの理念である「共に住まい、共に成長する」に基づいて寮生同士のピア・サポートを行う SCC-RA 制度を導入した。

SCC-RA 制度の概要

SCC-RA 制度とは、学部1年次から2年間を SCC に在寮した学部3年生の中から募集・選考した4名を SCC の運営に積極的に協力する SCC-RA（以下 RA）に任命、その活動を支援するために、1年間の SCC 在寮資格と奨学金を支給するものである。年期は学部3年生の4月から1年間。奨学金は月2万円を支給している。なお、任期中の寄宿料3万円は引き続き納入する。RA は他の寮生とは同ハウスにならず、RA のみで B ハウスを構成している。

次に選考方法について説明する。10月上旬から11月上旬にかけて、「RA 説明会」を開催し、RA 制度の概要、仕事内容の説明を行った。初年度の RA 募集は学寮アドバイザーが中心となって行ったが、2年目からは現役 RA が説明会のプログラムの組み立て及び説明を担当した。RA 応募者は説明会の1週間後に、「RA 申請書」を学寮アドバイザーに提出。11月下旬、応募者に対し学内の選考委員会による面接を行った。12月上旬には次年度の RA が決定。引き継ぎ及び新年度の準備を始めた。2月には RA 研修を実施。「RA マニュアル」を基に、RA の理念や活動が理解されるように支援を行った。平成25年度の初代 RA には、大学及びチームビルディングの会社が研修プログラムを用意したが、平成26年度の RA 対象者の研修からは、現役 RA が研修プログラムを作成・実行している。また、初年度に用意した「RA マニュアル」も、研修プログラムに合わせて改訂を行っている。



RA 研修の様子（平成25年度）

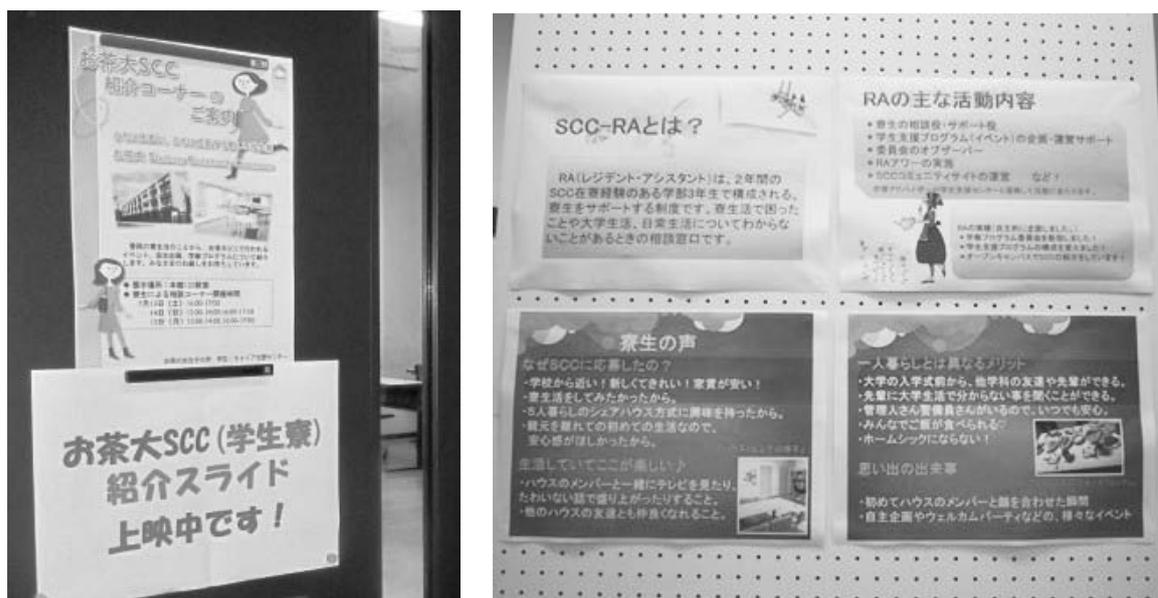
SCC-RA の活動内容

RA の立場は学寮アドバイザーと寮生の間に位置し、仲介役を担っている。ハウス長の集まる寮生協議委員会や各委員会にオブザーバーとして参加し、各委員会の進行状況を把握し、助言や相談を行っている。委員会に参加する中で、大学に報告・相談することがある場合は、学寮アドバイザーに連絡をとる。RA と学寮アドバイザーの定例会議も行われており、主に授業期間中の昼休み中、月 2 回程度の頻度で行っている。必要に応じて、学生寮担当の教職員が会議に加わることもある。

また、RA は学寮アドバイザーとともに SCC の視察の対応も行っている。新聞社や他大学からの視察が月に 1~2 件程あり、RA が対応できる場合は帯同するようにしている。視察の目的が、RA 制度について、また他大学の RA 及び寮生が来訪する場合は、事前に質問事項を受け付け、RA 自身で受け入れの準備をすることもある。

平成 25 年度は RA の企画として、本学学部オープンキャンパスでの「SCC 紹介コーナー」設置、「他大学学生寮視察」、「SCC 寮生 OG 懇談会」などを実施した。SCC は開寮以来、多くのメディアで取り上げられているが、寮内で行われている学生支援プログラムや実際の生活の様子等を、寮生自身が発信することはしていなかった。

SCC 紹介コーナーは、本学受験を考えている高校生に SCC についてもっと知ってもらいたいという思いから、受験生への情報発信としてオープンキャンパスにて教室を確保、ブース設けることになった。紹介コーナーでは学生支援プログラムについての展示、SCC の紹介スライド上映を随時行い、現役寮生による相談ではオープンキャンパス期間中の三日間（初日は半日のみ）で 450 名の高校生及び保護者が来場、延べ 150 件の相談を受けた。また「学生寮」として、国際学生宿舎（大山寮）との違いについて質問を受けることもあり、SCC の卒寮後に国際学生宿舎に入寮した元 SCC 寮生にも協力を仰いで対応した。このオープンキャンパスでのノウハウを基に、10 月の寮祭では入学・入寮を希望する高校生及びその保護者を 10 組招待し、SCC 紹介と受験相談を行った。



学部オープンキャンパス SCC 紹介コーナー

他大学の学生寮視察については、RA より、他の大学の学生寮の取り組みを見学し、SCC の活動に役立てたいという要望を受け、8 月と 9 月に行った。教育寮としての歴史のある国際基督教大学と麗澤大学に依頼、2 大学とも視察を受け入れていただくことができた。視察には RA の他に 1、2 年生の寮生も数名ずつ参加した。RA だけでなく寮生にも SCC 以外の寮を知る機会となった。また訪問先では、学生寮担当の教職員の他に、RA のような寮生をサポートする立場の寮生と話す機会も設定していただけるようにあらかじめ依頼し、寮が抱える課題について寮生同士で率直な意見の交換が行われた。寮内の見学や会議にも同席したことは、参加した寮生たちにとって大いに刺激となった。その後 10 月の寮祭では学生寮視察の報告行い、寮生及び来訪者に向けて RA の活動を知らせる機会となった。

また、学寮アドバイザーは、大分の立命館アジア太平洋大学とシンガポール及び香港の学生寮を持つ大学（シンガポール国立大学、南洋理工大学、香港大学）の視察も行い、帰国後それぞれの寮の様子を RA にも報告、情報を共有した。国内外の学生寮事情を知ることで、SCC とは規模も仕組みも異なる寮でも寮運営に関しては参考にできる部分が多いことを知り、RA にとっても実りの多い経験となった。

12 月には SCC 寮生卒寮生を迎え、OG 懇談会を行った。少人数ではあったが、ちょうど来年度の RA が決まった後ということもあり、現役 RA と新 RA が集まり、SCC 開寮時の話を聞きながら、現在の SCC の様子をふりかえる良い機会となった。OG からは、現在の SCC の行事や活動の様子をもっと知りたいという話もあり、今後は OG に向けての情報発信の方法についても考えていきたい。来年度は OG が就職し、社会人となるので、その経験を語る場として、寮生にとっても、SCC で寮生活を経験した先輩の話を、直接聞くことのできる場として活用していきたい。

平成 25 年度 RA の活動スケジュール

	学生支援プログラム・SCC 行事	RA 企画・参加
4 月	SCC-RA 任命式	★
	お茶大 SCC オリエンテーション	★
	第 1 回学修プログラム 講演会	
	チーム作りのワークショップ	
	ウェルカムパーティー	
5 月	清掃指導のワークショップ	
	第 1 回学修プログラム 発表会	
6 月	第 2 回学修プログラム 講演会	
7 月	学部オープンキャンパス SCC 紹介コーナー	★
	第 2 回学修プログラム 発表会	
	1 年生向けワークショップ	
8 月	国際基督教大学 学生寮視察	★
9 月	麗澤大学 学生寮視察	★
	RA・学寮アドバイザー合同ワークショップ	★

10月	寮祭	★
	RA説明会	★
11月	青森県立保健大学・お茶大 SCC 寮生交流会	★
12月	第3回学修プログラム 講演会	
	寮生 OG 懇談会	★
1月	第3回学修プログラム 発表会	
2月	RA研修	★
	新2年生とRAの交流会	★(新RA)
3月	お茶大 SCC 及び SCC-RA 修了証書授与式	★
	さよならパーティー	
	新2年生向けワークショップ(ハウス長研修含む)	★(新RA)

SCC-RA 制度導入後の変化

第3章(2)新寮の機能設計・運営 学生支援プログラム【平成25年度】でも述べているが、寮生協議員会の委員会構成の変更、学修プログラムの形式変更は、RAによって前年度末に提案された。前年度の学修プログラムは2年生のハウス長が中心となって企画・運営していたが、今年度から委員会になったことで寮生全体での関わりが増え、意識的に1年生の委員を取り込みながら行うことができた。

ハウス長とRAが出席する寮生協議委員会の会議は、授業期間中2週間に1回のペースで開催されている。会議をより充実したものにするために、RAがファシリテーターになり、会議を仕切り進めるようになった。会議を開く前にハウス長、委員長、学寮アドバイザー、管理人室、RAから議題を集め、アジェンダを作成し配布している。また「議事録」についても、以前から作成するようにはしていたが、会議の当日または翌日にはアジェンダに沿った議事録が必ず提出されるようになった。今後この議事録が蓄積されることによって、SCCのデータベースにもなることが期待される。学寮アドバイザーは委員会に同席していないが、アジェンダ・議事録があることにより、寮内の動きがさらによくわかるようになり、連絡も円滑に行われている。

また、RAが実際に参加したSCCのチームビルディングワークショップやミーティングでの経験を基にして、会議では「チェックイン」から始めて「チェックアウト」で終える、アイスブレイクを取り入れている。「チェックイン」では、本題に入る前に一人一つずつ、近況を話していくことで、場が和み、発言しやすい雰囲気作ることができ、「チェックアウト」では、感想やこれからすることを話すことで、会議の内容を共有する意味合いももっている。

参加者からは、アジェンダ、アイスブレイクの導入により、話し合うテーマが明確になり、効率的に会議が進められるようになったとの声を聞くことができた。

今後の課題

今年度はRA制度が実際に動き出し、試行錯誤しながら仕事内容を模索していった年であ

った。SCCには寮長、各委員会の委員長、ハウス長といったリーダーとなるポストがすでにあるため、RAがどのようにコミットしていくか、どのようなタイミングでサポートしていくかを常に考えながら進めていった。RAがコミットしすぎても2年生のリーダーシップが発揮されないため、見守る歯がゆさも経験した。これは学寮アドバイザーとRAとの関係にもあてはまることで、今年度はRA制度を構築していくために、度々話し合いの機会をもった。学寮アドバイザー、RA、寮生協議委員会の関係は、今後も調整しながら進める必要があると思われる。

また、ハウス長は寮生協議委員会及び各委員会でRAと関わりがあるが、それ以外の2年生、及び1年生にとっては、RAの活動を間近で見ることが少ないため、RAの活動を寮内に広く知らせる必要性を感じた。その対応策として、来年度からはRAの担当ハウス制を導入する。1人のRAが2~3ハウスを担当、ハウス長及びハウスメンバーとの連絡を密に取り、ハウス間交流のまとめ役としても活動することにしている。時に寮生は、寮生活に関する悩みをあまり表に出したがらず、抱え込んでしまうことがある。寮生活は自分の主張をしてばかりでは成り立たないが、反対に遠慮ばかりしていても、寮生活を楽しむことはできない。ハウスメンバーが困ったとき、相談にのれるような存在になるよう、普段からRAとの関わりを増やしていきたいと考えている。

お茶大 GAZETTE 2013年7月号 RA 紹介ページ

OCHADAI GAZETTE Summer, 2013

学生のアクティビティ

お茶の水女子大学の学生は授業以外にも様々な場所で様々な活動をしています。今回はその中でも「SCC-RA(新寮レジデント・アシスタント)」、「JOYnt TEA time」、「ボランティア活動」を紹介します。

SCC-RA (新寮レジデント・アシスタント) の活動 ……………

今年度より、SCC-RA(新寮レジデント・アシスタント)制度が新しく発足しました。この制度は、学部1年次から2年間に在籍経験があり、SCCの運営に積極的に協力をする学部3年生をSCC-RAに任命し、その活動を支援するために奨学金を支給するものです。SCC-RAは1、2年生の寮生の相談に乗ったり、学修プログラム、交流プログラム等の企画・運営を、大学・寮生と連携しながら行います。SCC-RAに就任した4名に意気込みと今の気持ちを聞きました。



学修プログラム委員会

RAへの意気込み

「やり残したことがある」というのが、RAになりたかった理由です。昨年も、OCHADAI GAZETTEにお茶大SCCのことを採り上げていただきましたが、そのとき、私はSCCのイベントについて書かせていただきました。SCCでは、さまざまなイベントが開催されていたり、企画・運営されていたりしていますが、いずれも理想のイメージがあります。共生とはそもそも何なのか、寮生がより多くの寮生と交流し学ぶためには何をすべきか、などの問題はもちろん、企画されたイベントが寮生の負担になってはならない。寮生が満足するものにしてあげたいという思いも強いです。2年生のとき、寮生協議委員会の一員として、各イベントをどのように行っていくかを熱く議論し続けていました。何度も何度も話し合い、試しましたが、結局、最終的には足りなかったかと思っています。そこで、RAとなり、1・2年生のサポートをしつつ、今後のSCCをより快適かつ学びのある場にしてあげたいと思いました。そして、RAとなり、3か月が経ちました。寮の環境がシステムの変更を機に目点の改善をしたり、RAとしてできる企画をしたり、改善活動中です。今なお、さまざまな課題や課題があり、その一つ一つに真剣に取り組んでいきたいと思っています。

(文教育学部人文科学科 越前由紀子)

2年間の生活を通して

振り返ってみると、2年間のSCCで生活したことが自分の成長と大きく関わっているように思います。1年目で初めて寮を合住する同寮生や先輩と共に暮らし、協議性や共同生活の楽しさ、多様な文化・習慣を学びました。2年目では、寮の先輩方がいない中で、大学や東京の生活に慣れる中で自分からいろいろな課題を自分たちで解決しなければならぬ状況が、私の責任感を強くさせました。

また他校だけでなく、SCCは一生もの出会いを帯びてくれました。SCCでは違う学部学科の友達と交流できるので、学部内だけでは得られない知識や経験が得られ、貴重な経験ができました。また、RAの職は同じSCC生と交わりやすいという点も大きな存在です。自分だけでなく、ほかの寮生も巻き込んでいける環境が、1人1人です。

SCCで暮らすことで一人暮らしや他の寮ではできない事も沢山経験することができ、この寮を次世代の拠点にしたいことを心でもよかったです。これからもRAの仲間と協力しながら、とてもお世話になったSCCに感謝をし、後輩達を元気づけたいと思います。

(文教育学部人文科学科 越前由紀子)

2年間を振り返って

私がSCCに入寮してから、2年が経ちました。この2年間を振り返ってみると、私の成長はSCCでなくてはならなかったという結論に達します。この寮で過ごすことになった人々との出会い、時間を共有することでかかえられない経験ができました。学修プログラム委員会の委員長、寮生協議委員会の役員、学生企画としてのハウスでの企画、そして2年生時の夏の寮祭。どれも、私にとっては初めての経験ばかりでした。このようなことを通じて、ハウスメンバーをはじめとした寮生との関係が生まれ、自分の活動や生活習慣を積極的に見ることができるようになりました。「共生」ということの楽しさと責任を共に感じるようになりました。

そして何よりも、SCCに入って本当に良かったと感じることは、今でも変わらずに私の友達や先輩、後輩と出会えたことです。寮、所属や出身は関係ありませんが、SCCで共に生活したことで、お互いのことやよく知っている程度のような関係が生まれました。

これからRAとして、寮生が悩んでいることを一緒に解決するSCCにするためのサポートをしたいと思います。

(文教育学部国際文化学科 三次玲奈)



学生協議委員会

RAへの意気込み

私がRAとして一番やりたいことは、SCCの寮生との結びつきになることです。これまでSCCで暮らした経験を活かして、後輩たちが困っていることに積極的に寄り添って、解決することができれば、SCCはもっと心地よくなり、寮生がもっと楽しく暮らしていけると思います。お茶大の中で最も経験を積んだことのないこの制度を、どのようにして取り上げていくかは私たち次第です。これからの活動も、自分たち自身で考えていきたいです。同じRAのメンバーと力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。そして自分がこの寮でやりたかったこと、これまでにできなかったこと、そして自分にとってこの寮で暮らして2年間はあまりに快適で楽しく、「もう1年だけでもいいから寮生にやらせたい」と思っていたのが実現したきっかけでした。今の寮に住んでいる寮生たちが卒業するまで、同じように生きていけるようにしたいなと思っています。

(文教育学部芸術・表現行動学科 藤岡麻)

(2) 内定者によるキャリア支援サポーター

平成 24 年度より、学生・キャリア支援センターのキャリア支援部門の担当者を中心に、就職内定者による「就職・キャリア支援」（キャリア支援サポーター）制度の試行にあたった。

主な支援内容は、「内定者による就活サポートコーナー」における個別相談対応と、「内定者体験報告会」における報告としている。

内定者による就活サポートコーナー

学生同士の相互支援活動の一環として、進路が決まった先輩学生が、これから就職活動を行う後輩学生に対して、自己分析や業界・企業研究、ES・面接・筆記試験対策など、就職活動に関する様々な質問や相談に対応している。

平成 24 年度は、図書館のキャリアカフェにおいて、民間企業編は毎週月・水・金曜日に、公務員編は毎週水曜日に実施した。時間帯はいずれも 13:00～17:00 を原則としている。

民間企業編は計 7 名（民間文系は 5 名・民間理系は 2 名）の内定者が対応。公務員編は計 2 名の内定者が対応した（それぞれ、上記曜日の中で参加可能な日に実施）。

サポートコーナーを担当した内定者の属性は以下の通りである。

文教育学部 言語文化学科 日本語・日本文学コース	4年	民間企業文系編運営スタッフ	金融業界内定
文教育学部 言語文化学科 仏語圏言語文化コース	4年	民間企業文系編運営スタッフ	専門商社内定
文教育学部 人間社会学科 社会学コース	4年	公務員編運営スタッフ	地方上級合格
生活科学部 人間・環境科学科	4年	民間企業理系編運営スタッフ	情報通信業界内定
生活科学部 人間生活学科 生活社会学講座	4年	公務員編運営スタッフ	地方上級合格
生活科学部 人間生活学科 生活社会学講座	4年	民間企業文系編運営スタッフ	物流業界内定
大学院 比較社会文化学専攻	2年	民間企業文系編運営スタッフ	電気機器メーカー内定
大学院 比較社会文化学専攻	2年	民間企業文系編運営スタッフ	放送業界内定
大学院 理学専攻	2年	民間企業理系編運営スタッフ	金融業界内定

以下はその実績である。11 月から 3 月にわたる 5 カ月間で計 45 回実施し、述べ 250 名もの学生のサポートにあたった。学年別にみると、就活本番を迎えた 3 年生が 219 名、博士前期課程 1 年生が 24 名と目立っており、「就活サポーター」として機能していたことがわかる。

平成 25 年度も同様に、12 月から 3 月中旬まで計 38 回の実施を予定している。3 名から 5 名程度の内定者（民間企業、官公庁、小・中・高等学校に内定・合格した学部生及び大学院生）が、後輩学生の相談対応を行っている。

平成 24 年度 内定者による就活サポートコーナー実績

実施日程	内定者 (運営スタッフ)	文教育学部				理学部				生活科学部				博士前期課程		博士後期課程			その他	合計		
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	1年	2年	3年				
11/12(月)	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
11/14(水)	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
11/16(金)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
11/19(月)	3	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
11/21(水)	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
11/26(月)	4	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
11/28(水)	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
11/30(金)	3	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
小計		0	3	15	0	0	0	5	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
12/3(月)	3	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
12/5(水)	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
12/7(金)	4	0	0	3	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
12/10(月)	4	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
12/12(水)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
12/14(金)	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4
12/17(月)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12/19(水)	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
12/21(金)	2	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
小計		0	0	18	1	0	0	4	0	1	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	30
1/7(月)	2	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
1/9(水)	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
1/11(金)	4	0	0	6	0	0	0	2	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
1/16(水)	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5
1/18(金)	4	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
1/21(月)	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
1/23(水)	4	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	10
1/25(金)	2	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
1/28(月)	3	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
1/30(水)	4	0	0	5	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
小計		0	1	27	0	0	0	13	0	0	0	17	0	6	0	0	0	0	0	0	0	64

2/1(金)	2	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
2/4(月)	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
2/6(水)	5	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	9
2/8(金)	5	0	0	5	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10
2/13(水)	5	0	0	4	0	0	0	6	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
2/15(金)	5	0	0	6	0	0	0	2	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	13
2/18(月)	3	0	0	5	1	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10
2/20(水)	5	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	8
2/22(金)	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	8
2/27(水)	4	0	0	4	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
小計		0	0	40	1	0	0	21	0	0	0	16	0	13	0	0	0	0	0	0	0	91
3/1(金)	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
3/4(月)	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
3/6(水)	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
3/8(金)	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6
3/11(月)	3	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
3/13(水)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
3/15(金)	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
3/18(月)	6	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
小計		0	0	11	0	0	0	5	0	0	0	17	0	3	0	0	0	0	0	0	0	36
合計		0	4	111	2	0	0	48	0	1	0	60	0	24	0	0	0	0	0	0	0	250

内定者体験報告会

学生同士の相互支援活動の一環として、就職活動の体験報告会を実施した。その場では、進路が決まった先輩学生が、これから就職活動を行う後輩学生に向けて自らの体験談を紹介するとともに、学業や課外活動との両立や併願などについてアドバイスを行っている。

平成 24 年度は、図書館のキャリアカフェにおいて、以下のように実施した。

日時	内容	文教育学部				理学部				生活科学部				博士前期課程		博士後期課程			その他	合計		
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	1年	2年	3年				
10/22(月) 12:30~14:30	公務員編	3	2	23	0	0	0	3	0	0	0	6	1	7	0	0	0	0	0	0	0	45
10/26(金) 12:30~14:30	民間企業文系編	0	10	29	0	0	0	7	2	0	0	11	0	7	0	0	0	0	0	0	0	66
10/29(月) 12:30~14:30	民間企業理系編	0	0	0	0	0	0	1	15	0	0	9	0	15	0	0	0	0	0	0	1	41
合計		3	12	52	0	0	0	1	25	2	0	26	1	29	0	0	0	0	0	0	1	152

体験報告会を担当した内定者の属性は以下の通りである。

文教育学部 言語文化学科 日本語・日本文学コース	4年	公務員編 報告	国立大学法人合格
文教育学部 言語文化学科 日本語・日本文学コース	4年	民間企業文系編 報告	金融業界内定
文教育学部 言語文化学科 仏語圏言語文化コース	4年	民間企業文系編 報告	専門商社内定
文教育学部 人間社会科学科 社会学コース	4年	公務員編 報告	地方上級合格
理学部 生物学科	4年	民間企業理系編 報告	情報通信業界内定
生活科学部 人間・環境科学科	4年	全編 運営・受付	地方上級合格
生活科学部 人間・環境科学科	4年	公務員編 報告	東京都庁合格
生活科学部 人間・環境科学科	4年	民間企業理系編 報告	情報通信業界内定
生活科学部 人間生活学科 生活社会科学講座	4年	全編 司会	地方上級合格
生活科学部 人間生活学科 生活社会科学講座	4年	民間企業文系編 報告	物流業界内定
大学院 比較社会文化学専攻	2年	民間企業文系編 報告	電気機器メーカー内定
大学院 比較社会文化学専攻	2年	民間企業文系編 報告	放送業界内定
大学院 人間発達科学専攻	2年	公務員編 報告	国家公務員合格
大学院 ライフサイエンス専攻	2年	公務員編 報告	東京都庁合格
大学院 ライフサイエンス専攻	2年	民間企業理系編 報告	飲料メーカー内定
大学院 ライフサイエンス専攻	2年	民間企業理系編 報告	ガス業界内定
大学院 理学専攻	2年	民間企業理系編 報告	金融業界内定

これらの取り組みについては、以下のようなポスターを作成し、電子掲示板やホームページなどを通して広報を行っている。

内定者体験報告会
公務員/民間理系/民間文系

公務員志望⇒11/11(月)
民間理系志望⇒11/13(水)
民間文系志望⇒11/15(金)

内定者体験報告会【公務員編】
【内容】公務員試験に合格した先輩たちによる体験談
【日時】11/11(月)12:30~14:30 【場所】附属図書館1階キャリアカフェ

内定者体験報告会【民間理系編】
【内容】民間企業に内定した理系の先輩たちによる体験談
【日時】11/13(水)12:30~14:30 【場所】附属図書館1階キャリアカフェ

内定者体験報告会【民間文系編】
【内容】民間企業に内定した文系の先輩たちによる体験談
【日時】11/15(金)12:30~14:30 【場所】附属図書館1階キャリアカフェ

【対象】本学学部生・大学院生(学年不問)
【予約】不要。直接会場までお越しください。
【お問い合わせ】学生・キャリア支援センター
Mail: kishino.sachiko@ocha.ac.jp (岸野)

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター主催

内定者体験報告会
【教員編】

開催決定！
2/7(金)12:30~14:30
附属図書館1階キャリアカフェ

こんな人におすすめです！
・漠然と教師になりたいを考えている
・民間企業や公務員と迷っている
・進路を考える上でのヒントが見つかります！

《内容》公立や私立の小・中・高等学校の教員に採用が決まった先輩学生が、後輩学生に向けて自らの体験談を語ります。※質問会もあります。
《日時》2014年2月7日(金)12:30~14:30
《場所》附属図書館1階キャリアカフェ
《対象》本学学部生・大学院生(学年不問)
《予約》不要
《本件に関するお問い合わせ》
学生・キャリア支援センター 担当: 岸野
kishino.sachiko@ocha.ac.jp

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター主催

学内広報用ポスターの例

参加した学生からの声

平成24年度の内定者体験報告会に参加した学生からは、以下のような声が寄せられている。



◆内定者体験報告会【公務員】編 参加者の声

内定者体験報告会【公務員】編（アンケート結果より抜粋）

- ・事務系、技術職系、いろいろな職種の方の話を聞いたのが良かった。
- ・実際に内定者の方々とお話ができて勉強になりました。今後も続けてほしいです。
- ・最後に個別質問コーナーがあったのが良かったです。全体の前では話してもらいにくいお話も聞いて、不安が解消されました。
- ・来て本当に良かったです。先輩方のように一年後、後輩に素敵なアドバイスをできるよう、今からしっかり頑張りたいです。
- ・いろんなタイプの人の話を聞いて参考になりました。ありがとうございました。
- ・なかなか自分の周りに第一志望のところに内定した方がいらっしゃらなかったのも、良い機会でした。



◆内定者体験報告会【公務員】編 内定者の声

内定者体験報告会【公務員】編（ヒアリング結果より抜粋）

- ・参加者の方がとても熱心に聞いて下さり、嬉しかったです。役に立つことを話せたかが不安ですが、質問しに来てくれた方もいて、やって良かったと思いました。また、他の報告者の方の話を聞いて、これから頑張って働いていこうと思いました。参加させていただいて、ありがとうございました。
- ・自分の時にはこういう機会が無かったので、不安解消のよい機会だったと思う。



◆内定者体験報告会【民間企業：文系】編 参加者の声

内定者体験報告会【民間企業：文系】編（アンケート結果より抜粋）

- ・不透明だった12月からの予定が何となくイメージできるようになって、良かったです。
- ・企業研究など、具体的な話をお聞きすることができて、良かったです。
- ・自分の就活姿を想像するのに、大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・疑問に思っていたことや、知りたかったことをお聞きすることができて、良かったです。
- ・これから就活を本格的に始めるにあたり、とても参考になる内容でした。



◆内定者体験報告会【民間企業：文系】編 内定者の声

内定者体験報告会【民間企業：文系】編（ヒアリング結果より抜粋）

- ・なかなか就活の記憶が思い出せず、うまくアドバイスできたか不安だし、未だに自分の軸が定まっていないのを再認識しました。就活生が不確かな情報によって、必要以上に不安を感じているという現実を知って、もっと自分という人間を堂々と売ってほしいなと思いました。
- ・自分が先輩方にお世話になったように、少しでも後輩の役に立てたらうれしいので、できることは何でもしたいと思いました。



◆内定者体験報告会【民間企業：理系】編 参加者の声

内定者体験報告会【民間企業：理系】編（アンケート結果より抜粋）

- ・とても近い存在であるお茶大の先輩方のリアルなお話を聞くことができたので、とても参考になりました。
- ・意識が高まりました！ありがとうございました。
- ・パネルディスカッションでの質問項目が、知りたい内容ととてもよく合っていたので、参考になりました。
- ・身近で具体的な内容で、参考になりました。
- ・不安が起き始める時期に、先輩からアドバイスをいただけて、落ち着きました。



◆内定者体験報告会【民間企業：理系】編 内定者の声

内定者体験報告会【民間企業：理系】編（ヒアリング結果より抜粋）

- ・たくさんの方が聞きに来て下さり、就活の手助けができて、良かったです。お茶大はあまりタテのつながりがなく、OG訪問ができずに困ると思うので、OGを呼んで行う懇談会をもっと多く開いたら良いと思いました。
- ・就職活動を半年ぐらい前に終えて、記憶がおぼろげになっていたが、今回の機会でも、就職活動を振り返ることができて良かったと思う。
- ・司会の方の誘導により、言いたい事が言えました。就活の不安を少しでも和らげられたら幸いです。

「内定者体験報告会」に対するキャリア支援サポーターからの声

【公務員編】

日時：2012年10月22日（月）

対象：内定者7名（報告者：5名、司会進行：1名、運営全般：1名）

- ・自分の時にはこういう機会が無かったので、不安解消のよい機会だったと思う。
- ・先輩の話は、今現在の情報が得られるため、モチベーションが上がるきっかけになると思う。質問をしている様子も、生の声が聞きたいという学生の姿勢が感じられた。
- ・大勢の前で話すと、自分の持つどの情報が有益か、個人的な話になりすぎないか、というところに気を使いました。なので、全体（報告会）→個別（相談）という両方があったのは、良かったです。
- ・会としての対象者、目的がもう少し明確だと、深い話ができるかな、と思った。
- ・緊張して、試験についての説明を飛ばしてしまったところが反省点です。参加者の方がまずどの程度、試験のことについて知識をもっているのかわからなかったもので、最初に知らない人がどのくらいいるか、手を挙げてもらえると良かったかもしれないです。
- ・参加者の方がとても熱心に聞いて下さり、嬉しかったです。役に立つことを話せたかが不安ですが、質問しに来てくれた方もいて、やって良かったと思いました。また、他の報告者の方の話聞いて、これから頑張るって働いていこうと思いました。参加させていただいて、ありがとうございました。
- ・みなさん、なごやかに質問して下さって、私も答えやすかったです。ただ、緊張していたのは、私の話（国家公務員、心理職）にどこまで需要があるのか分からなくて、ありきたりのことしか答えられなかった気がして・・・すみません。個別相談になってから、リラックスできました。私自身も、大変良い機会になりました。

【民間企業文系編】

日時：2012年10月26日（金）

対象：内定者7名（報告者：5名、司会進行：1名、運営全般：1名）

- ・なかなか就活の記憶が思い出せず、うまくアドバイスできたか不安だし、未だに自分の軸が定まっていないのを再認識しました。就活生が不確かな情報によって、必要以上に不安を感じているという現実を知って、もっと自分という人間を堂々と売ってほしいなと思いました。売るのは、専攻でも、経験でも、身分でもなくて、「人格」とか「哲学」であることを、伝えていけたらいいな、と思いました。
- ・出席者が多くて、お茶大生のまじめさに感心しました。まだ早い時期ではあるので、参加者の今後のメンタルが少し心配になりました。
- ・もう少し長かった方が良かったのでは、と思いますが、色々な都合があるので、難しいですよね...。「就活なんてクソだ！」みたいな子に、どう励ましを言えば...（気持ちはすごく分かるので）。自分をよく見せるコツが分からない子が多いように思いました。自分のさじ加減だからこそ、説明が難しかったです。

- ・簡潔に話すように、とアドバイスしつつ、だらだら話してしまった。自分が先輩方にお世話になったように、少しでも後輩の役に立てたらうれしいので、できることは何でもしたいと思いました。
- ・内定者の人数もいて、時間も限られていると、自分の考えをその場で簡潔にまとめるのが結構難しかったです（自分の能力の問題）。全体で挙手して、聞いてもらうのもあったら良かったかなと思います。
- ・業種ごとにもう少し対策を引き出せればよかったと思います。業種・ES・企業研究・面接対策なども。業界別など、細かい方が理解を深められたと思います。時期にもよるけれども...
- ・民間の人の方が、公務員より数をこなしていて、失敗の数が多い為、「こういうのはしない方がいい」という話が聞けた。「こうすれば大丈夫」よりも有効だと思います。

【民間企業理系編】

日時：2012年10月29日（金）

対象：内定者7名（報告者：5名、司会進行：1名、運営全般：1名）

- ・たくさんの方が聞きに来て下さり、就活の手助けができて、よかったです。お茶大はあまりタテのつながりがなく、OG訪問ができずに困ることがあると思うので、OGを呼んで行う懇談会をもっと多く開いたら良いと思いました。
- ・就職活動を半年ぐらい前に終えて、記憶がおぼろげになっていたが、今回の機会で、就職活動を振り返ることができてよかったと思う。
- ・概要はなんとなく用意して挑んだが、実際にはなかなか話すことができなかった（簡潔に話し過ぎた）。懇談会の時の質問内容については、比較的、似通っていた（なぜ、研究職に決めたのか、基礎・応用の違いなど）。
- ・司会の方の誘導により、言いたい事が言えました。就活の不安を少しでも和らげられたら幸いです。理系・文系というくくり以外に、業界別の内定者報告会があっても面白いかな、と思いました。
- ・就活について、自分で振り返るきっかけとなって良かったです。
- ・「自分の聞きたい事だけ聞く」というより、幅広い業種の内定者の話を「強制的に頭に入れることができる」ため、他業種の話の大切さ、失敗談の大切さを学ぶことができる。学生さんの意識を変えることに役だっているかな、と思いました。
- ・今日の内定者の方々は、気持ちの持ちようを強調して話していた人が多かったので、やる気が出ると思った。

本学の学生間の相互支援活動（特に就職支援）に関するキャリアサポーターへの意見

- ・相談会という形で、機会があると良いと思う。
- ・2週間に一度、公務員内定の学生による相談（予約制で予約があった時のみ開催）をやってみるとよいと思います。失敗者の話というのが無かったので、どういう人が落ちるのかわからなかった。苦労した末に内定が得られた人の話も聞いてみたい。（失敗談なら、話せます！）
- ・私の科では、意外とタテのつながり、情報交流がありません。なので、こういった先輩の声を聞けるイベントや、先輩への相談コーナー、ES添削などをしていただけると、学生として助かると思います。
- ・何とか、岸野さんのお手を借りながら、学生同士が就職支援をするという組織が作ればと思っています。お手伝いする側にも、当事者意識が足りない気がします。
- ・公務員試験のこと以外にも、就活全般について質問を受けたので、就活について悩んでいる3年生が多いのかな、と感じました。今後どう発展させていくべきかは、わかりません。すみません。
- ・就活生同士で情報を交換できる場があったらいいかも、と思いました。お茶大は、結構マイノリティで、W大とかK大に比べると学生同士の情報交換の場が少ないと思います。お茶大OG懇談会は引き続き盛大に行ってほしいと思いました。
- ・活動していく中で、不安がつのると思うので、（めんどくさいかもしれませんが）Twitterやfacebook等の利用もあるといいかもしれないな、と思いました。
- ・編入学生は内部ラインが無いので、かわいそうかも....。
- ・去年、内定者とお話ができる機会がたくさんあれば良いなと思ったので、交流できる機会が多いと思います。同じ人ばかりではなく、日雇い？で色々な人が出てくると面白いと思います。
- ・学生間の相互支援がサークルや学部の人脈によるものが大きいと思うので、人脈があまりない人に対しても、相互支援を提供できるような機会が必要だと思いました。
- ・OB・OG訪問会を強化。現段階でも、取り組みがたくさんあると思いますが、より多くの人その活動を知れるように、広告を強化したらよいと思います。
- ・今日のような就活の報告会や懇談会をなるべく多く開いたり、OG訪問などをしやすい環境を作ったら良いと思いました。
- ・縦のつながりをもつのは、まだ難しいかな、と思います。まずは横のつながりが必要だと思います。同業界を目指す学生の集まりなど....。
- ・こういった場があると、就活生にとってプラスになると思います。